

ESD 岡山アワード 2015-2019

報告書



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

ESD 岡山アワード運営委員会、岡山市

目次

1. ESD 岡山アワード概要.....	2
2. ESD 岡山アワード受賞事業一覧.....	5
3. ESD 岡山アワード受賞事業概要.....	6
グローバル賞.....	6
岡山地域賞.....	11
付録：ESD 岡山アワード受賞事業ポスター.....	18
受賞事業ポスター一覧.....	18
グローバル賞（英語版のみ）.....	19
岡山地域賞.....	29

1. ESD 岡山アワード概要

■ 背景：

気候変動の緩和や適応、生物多様性の保全、貧困削減など直面する様々な課題を解決し、現在および将来の世代が安心して暮らせる社会を実現するために、価値観や思考、行動を変革するための学びや実践を促進する「持続可能な開発のための教育（ESD）」が世界各地で推進されています。2015年9月25日には、国連総会において「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、その中でも、教育は「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成のための重要な柱の1つに挙げられており、ESDの更なる推進が期待されています。

岡山地域では2005年から「岡山ESDプロジェクト」をスタートし、様々な機関や団体が連携・協働しながらESDを推進しており、2014年には岡山市において、「ESDに関するユネスコ世界会議」のステークホルダー会合及び関連会議が開催されました。

岡山市は、2015年以降のESD推進の枠組みである「ESDに関するグローバル・アクション・プログラム（GAP）」の優先行動分野「地域コミュニティ」のユネスコ・キーパートナーの1つに認定されており、引き続きESDを積極的に推進するとともに、GAPに貢献するために2015年に「ESD岡山アワード」を創設しました。本アワードは、岡山市が、国内外においてESDの推進に貢献してきた団体等で構成される「ESD岡山アワード運営委員会」との共催により実施するものです。

- **目的：**国内外におけるESDの優良事例を顕彰することで、ESDの見える化や普及に貢献し、ESDの事業を実施する団体の活動の充実への一助とすることを目的としています。

- **主催：**ESD岡山アワード運営委員会*及び岡山市

*構成組織は以下のとおり。

- ・ 国連大学サステイナビリティ高等研究所（UNU-IAS）
- ・ ユネスコ・アジア太平洋地域教育局
- ・ 公益財団法人 ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）
- ・ NPO 法人 持続可能な開発のための教育推進会議（ESD-J）
- ・ 公益財団法人 五井平和財団
- ・ 岡山 ESD 推進協議会

- **部門：**以下の2つの部門から構成されます。

- (A) 「グローバル賞」…国内外の事業を対象とする
- (B) 「岡山地域賞」…岡山県内の事業を対象とする。

(A) グローバル賞

- **応募資格**：国外・国内（岡山県内含む）においてESDの事業を実施する団体
- **受賞数**：2件以内
- **賞金**：各3,000ドル
- **審査基準**：地域コミュニティにおけるESDの事業のうち世界のモデルとなり、ESDの普及に貢献することが期待される優良事例を顕彰します。ESDに関する有識者等を審査員とし、以下の基準に基づいて審査します。

ビジョン	持続可能な社会の実現に向けた地域コミュニティの課題、事業の目的を明確にしているか。
協働	多様なステークホルダー（人や団体）が協働する仕組みができているか。
統合	環境、経済、社会の側面を統合的に組み込んでいるか。
エンパワーメント	持続可能な社会づくりに向けて、課題解決に向けた学び合いや実践を促す教育が行われ、個人の価値観・態度・行動の変容や地域力の向上につながっているか。
革新性	ESD事業の推進にあたって革新的なアプローチや手法を用いているか。
発展性	事業が今後も継続的に実施され、発展する見込みがあり、他の地域コミュニティにも波及することが期待できるか。

- **応募数・受賞数**：各年度の応募数・受賞数は以下のとおりです。

年度	応募数	受賞数
2015	50件（28か国）	2件
2016	95件（39か国）	2件
2017	44件（29か国）	2件
2018	68件（34か国）	2件
2019	94件（42か国）	2件
計	351件	10件

(B) 岡山地域賞

- **応募資格:** 岡山県内において ESD の事業を実施する団体
- **受賞数・賞金および特典:** 各賞の賞金および特典等は以下のとおりです。
 ※奨励賞は 2018 年に新設（賞金は 2019 年に導入）
 - ◆ **優秀賞:** 岡山県内のモデルとなり、ESD の普及に貢献している優良事例
 受賞数：2 件以内
 賞 金：各 20 万円
 - ◆ **奨励賞:** 今後の発展性が見込めるなど、ESD の普及に貢献することが期待される事例
 受賞数：2 件以内
 賞 金：各 3 万円
- **審査基準:**
 ESD に関する有識者等を審査員とし、以下の基準に基づいて審査します。

ビジョン	持続可能な社会の実現に向けた地域コミュニティのビジョン、事業が取り組む課題や目的を明確にしているか。
協働	多様なステークホルダー（人や団体）と協働しているか。
統合	環境、経済、社会の視点を複数组み入れているか。
エンパワーメント	持続可能な社会づくりに向けて、課題解決のための学び合いや実践を促す教育が行われ、個人の価値観・態度・行動の変容や地域力の向上につながっているか。
発展性	事業が継続的に行われ、かつ発展する見込みがあり、他の事業に波及することが期待される。

- **応募数・受賞数:** 各年度の応募数・受賞数は以下のとおりです。

年度	応募数	受賞数
2015	30 件	2 件
2016	10 件	2 件
2017	14 件	2 件
2018	7 件	優秀賞 2 件、奨励賞 3 件
2019	8 件	優秀賞 1 件、奨励賞 3 件、審査員特別賞 1 件
計	69 件	16 件

2. ESD 岡山アワード受賞事業一覧

(A) グローバル賞 受賞団体

年度	事業名	団体名	国
2015	カンボジア農村地域におけるコミュニティ図書館 (CLC) 事業	公益社団法人シャンティ国際ボランティア会	日本/カンボジア
	気候変動がもたらす悪影響に対処するための森林と生物多様性の保全、教育、社会、経済、環境からの持続可能な開発に向けた取組	Dhaka Ahsania Mission (DAM)	バングラデシュ
2016	インドネシア河川再生運動	ガジャマダ大学 (インドネシア河川再生運動第一事務局)	インドネシア
	学校における水の売店	国際トランスフォーメーション財団 (ITF)	ケニア
2017	地域コミュニティの社会・経済的発展に向けた統合的な伝統芸能の保存	デウィ・フォルトゥナ・コミュニティ学習センター(CLC)	インドネシア
	ケララ子ども農業科学会議 (KBKSC)	RCE ティルヴァナンタプラム	インド
2018	持続可能な農業と教育	シカルプール コミュニティ学習センター	ネパール
	イスカンダル・マレーシア・エコライフチャレンジ	RCE イスカンダル	マレーシア
2019	真のアフリカ若手女性リーダーの育成事業	女性のリーダーシップと研修プログラム	南アフリカ
	地域に根差した包摂的な防災に向けたコミュニティの能力強化	学習とコミュニティ発展に向けた人々のイニシアティブ	フィリピン

(B) 岡山地域賞 受賞団体

年度	事業名	団体名	
2015	岡山市京山地区 ESD プロジェクト	岡山市京山地区 ESD 推進協議会	
	和気閑谷高校 高校魅力化事業	岡山県立和気閑谷高等学校	
2016	地域で魅力的に生きる大人と将来を模索する若者の交流事業だっぴ	特定非営利活動法人だっぴ	
	子どもたちがつなぐ矢掛の未来のまちづくり	やかげ小中高こども連合 YKG6	
2017	グローバル人材の育成&ESD 思想の普及と定着	特定非営利活動法人こくさいこどもフォーラム岡山	
	TERAKOYA Project(岡山とネパールを繋ぐ環境問題啓発・学習支援・女性の収入向上のためのプロジェクト)	ダフェプロジェクト	
2018	優秀賞	瀬戸内海の海底ごみ問題の解決に向けた女子中高生の挑戦	山陽女子中学校・高等学校 地歴部
		アフリカと日本をわくわくで繋ぐアップサイクル商品フェアトレード事業	jam tun
	奨励賞	ESD に資する里山の現代的利用 ～南海トラフ地震への対策をめざして～	就実・森の学校
		サイピアにおけるバーチャル科学館の体験	特定非営利活動法人 co2sos
	三門学区地域のみんなでつながり隊	三門学区地域のみんなでつながる隊	
2019	優秀賞	岡山後楽館高等学校「まちなかのふるさと教育」	岡山市立岡山後楽館高等学校
	奨励賞	食とエネルギーの地産地消を考える	おかやまエコマインドネットワーク
		私たちの国際協力	倉敷市立第二福田小学校
		障がいがあっても、いきいきと人生を生きられるように！ ～のぼり旗の端材を利用し、障がい者が商品化。企業、学生とのコラボ事業！～	株式会社ありがとうファーム
審査員特別賞	岡山における民間ユネスコ運動としての ESD 関係活動	岡山ユネスコ協会	

3. ESD 岡山アワード受賞事業概要

※掲載されている各事業の概要は、応募当時の情報です。

グローバル賞

2015 年 グローバル賞 受賞事業

カンボジア農村地域における図書館活動を中心とした CLC

団体名：シャンティ国際ボランティア会 [カンボジア]



過去の戦乱の影響で、カンボジアの農村地域の住民の多くが読み書きに困難を抱え、日常生活にあらゆる支障をきたしている。本事業では、子どもから大人までが集い、学べる生涯学習の拠点としてコミュニティ図書館（CLC）を設立し、図書館活動を中心に、日常的に本や文字に触れる機会を提供することで識字の向上を図っている。また、住民のニーズに合わせ、生活向上のための農業や保健・衛生の研修に加え、スポーツや文化活動にも力を入れている。

気候変動による悪影響に対処する森林と生物多様性の保全、教育、社会、経済、環境を通じた持続可能な開発

団体名：ダッカ・アーサニア・ミッション（DAM） [バングラデシュ]



気候変動による災害の影響を受けやすいバングラデシュの2つの地域を対象に、マングローブや森林、生物多様性の保全、環境教育等を通して気候変動の原因解消に向けて取り組むとともに、防災訓練などを通じて防災・減災意識を高める事業を展開している。また、生活支援や低金利の融資（マイクロファイナンス）、職業訓練等などを通して、代替の生計手段獲得に向けた支援を行いながら、森林や生物多様性の保全の教育を行うなど、気候変動がもたらす悪影響をテーマに、様々な切り口からESDの取組を行っている。

2016年 グローバル賞 受賞事業

学校における水の売店

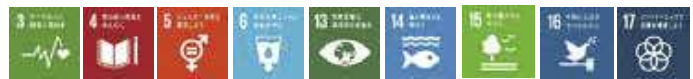
団体名：国際トランスフォーメーション財団（ITF）〔ケニア〕



ケニアでは、家の近くで購入可能な値段で安全な飲み水を得ることができる人口の割合が、全体の3分の1に過ぎないと推定されている。そのため、子どもたちは家族の水を確保するために、毎朝早起きをして長い距離を歩き、水をくみに行かなければならず学校からドロップアウトしてしまう子どもも多い。「学校における水の売店」は、学校を拠点とした事業で、生徒たちが地域住民に清潔な水道水を販売するビジネスを運営している。本事業は、学校に少額を融資する仕組みとなっており、敷地内に、特別

にデザインされ、持続可能性に配慮した製品を取り扱う水の売店をつくっている。例えば、節水し、水をろ過できる水道ステーション、環境に配慮した詰め替え用ボトル、手洗い用の設備、生徒たちが学校から直接家に水道水を運ぶための台車等の製品を取り揃えている。本事業は、生徒たちがビジネスや起業のスキルを学べ、学校にも収益がある、教育的かつ利益性の高いビジネスである。

インドネシア河川再生運動



団体名：ガジャマダ大学（インドネシア河川再生運動第一事務局）〔インドネシア〕



インドネシア河川再生運動は、河川を再生し、きれいで、健康的かつ生産的で保全された状態に保つために、長期にわたって実施されるコミュニティに根ざした事業（運動、活動）である。河川の再生に対して近隣の地域コミュニティやステークホルダーが責任を持ち、活動への参加を促進することを目的とする。地域 コミュニティ、人々、団体、NGO、大学、企業、地方自治体、政府等が連携して

おり、ソーシャルメディアを活用している。2014年、ジョグジャカルタにてスタートし、運動に参加している河川コミュニティの数は、当初の6から着実に増加して、2016年には22を超えている。河川コミュニティの協力を得て、生態学的、形態学的、水文学的に河川を良い状態を保つ取組を中心に様々な活動が行われており、その結果、活動が行われているいくつかの河川は、比較的きれいに保全されている。本事業は、インドネシアのすべての河川がきれいになり、各河川に保全活動のための河川コミュニティができるまで継続的に実施される。

2017年 グローバル賞 受賞事業

地域コミュニティの社会・経済的発展に向けた統合的な伝統芸能の保存

団体名：デウィ・フォルトゥナ・コミュニティ学習センター(CLC) [インドネシア]



クラテン (Klaten) は、セウ寺院 (8 世紀)、プランバナ
ン寺院 (10 世紀) の遺跡を含む遺跡群がユネスコ世界遺産
に登録されている文化都市である。しかし、グローバル化
の負の影響、金融危機等により伝統芸能が衰退しつつある。
デウィ・フォルトゥナ・コミュニティ学習センター (CLC)
は、伝統芸能を学ぶ機会を提供しており、2005 年に伝統芸
能保存機関から表彰を受けた。また、日本の田村史子氏 (現
筑紫女学園大学准教授) と協力し、2006 年の大地震の被害

(死者 1,045 名、負傷者 18,127 名、避難者 713,788 名、家
屋被害 32,377 棟、学校倒壊 398 校) による心の傷を癒すため、ワヤン・クリ (Wayang Kulit、イ
ンドネシアのジャワ島やバリ島で行われる、人形を用いた伝統的な影絵芝居) を 32 カ所で無料上
演し、クラテンの CLC アワードを受賞した。しかし、2010 年のムラピ火山の噴火によるさらなる
被害により、地域コミュニティのぜい弱化、伝統芸能保存の危機に拍車がかかっている。そこで、
私たちは、地域コミュニティの経済・社会・文化的な発展を目指し、伝統芸能の保存に、識字教育、
技術訓練、起業促進などの要素を組み入れながら取組を行っている。

ケララ子ども農業科学会議 (KBKSC)



団体名：RCE ティルヴァナンタプラム [インド]



ケララ子ども農業科学会議 (KBKSC) は、ケララ
州の生徒の農業への関心を高めるために、RCE ティ
ルヴァナンタプラムが実施している事業である。急
速に消費主義的経済が広まり、子どもたちは、ケラ
ラ州が持つ農業における豊かな遺産に対する自覚を
失っている。そこで、農家と学校が協力し、現代的
および伝統的な農業を学ぶ機会を設けることで、高
齢者と子どもたちが、共に未来のために食料を作る

ようになっている。最近の主要テーマは「オーガニックなケララ、健康なケララ(Organic Kerala: Healthy Kerala)」である。研究論文の発表や、展示、文化イベント、ドキュメンタリー・映画祭を
はじめとする様々なコンテストも実施しており、ケララ州の 14 地区の学校が本イベントに参加し
ている。

2018年 グローバル賞 受賞事業

持続可能な農業と教育

団体名：シカルプール コミュニティ学習センター [ネパール]



竹を活用したエコ・キッチンの建設、太陽光による灌漑システム、雨水採取用ため池、堆肥化可能なトイレ、家畜を使ったオーガニック農業や、ホームメイドの農作物の生産等を行っている。学校の授業料は無料で、キッチンで調理しているケータリングサービスや乳製品の販売等による収益で運営費を賄っている。現在 15 名の若者が居住しており、年間に少なくとも 440 名の若者が研修を受講している。



イスカンダル・マレーシア・エコライフチャレンジ

団体名：RCE イスカンダル [マレーシア]



電力、水、石油など家庭のエネルギー使用量を記録・評価する小学生向けの環境家計簿を活用した取組。マレー半島の南部に位置する開発地域イスカンダルにおける低炭素社会構築に関する政策のもと、生徒および教員が低炭素社会の実現に向けた課題や方策について学び、実践するプログラムである。エネルギーの使用やそれに関する議論を促し、生徒たちが早い時期から省エネ行動を身に着けることを目的としている。マレーシア工科大学、ジョホール州教育局およびイスカンダル地域開発公社の協働により、イスカンダル地域にある学校の 6 年生（12 歳）全員を対象にコンテストを実施している。



2019年 グローバル賞 受賞事業

真のアフリカ若手女性リーダーの育成事業

団体名：女性のリーダーシップと研修プログラム [南アフリカ]



農村地域の若い女性、問題解決のためのスキルや能力を向上するリーダーシップ育成事業。目標人数は150人。若手女性リーダーが、より多くの女性をはじめ、伝統的なリーダーや行政なども巻き込みながら波及効果を

及ぼすことを目指している。重点テーマは、ジェンダー、環境、生物多様性と気候変動。ジェンダーは、啓発や教育プログラムを通して農村地域の女子や女性のリーダーシップを向上することに焦点を当てている。彼女たちは、アグロエコロジー (Agro-Ecology) ※、野鳥観察、植林、水管理や廃棄物リサイクル、太陽光発電などに取り組んでいる。プログラムでは、教育学者・哲学者であるパウロ・フレイレの提唱した参加型のアプローチを活用している。

※生態系を守る農業や社会のあり方を求める科学や運動、実践などのこと。



地域に根差した包摂的な防災に向けたコミュニティの能力強化

団体名：学習とコミュニティ発展に向けた

人々のイニシアティブ [フィリピン]



地域コミュニティにおける防災・減災計画や管理において、障害者などリスクの高いグループの包摂的かつ積極的な参加を通じて、カルボヨグ、カトバラガン、サマール地区における12のバラングイ※の自然災害へのレジリエンスを高

めるための能力向上に取り組んでいる。参加型で創造的な方法により、障害者のみならず、女性、高齢者、若者、子どもなどの社会的弱者も参画し、気候変動や自然災害によって引き起こされる持続可能な社会づくりに向けた課題に取り組んでいる。プロジェクトの主な活動は次の3つ。

- 1) 障害者も包摂する防災・減災及び気候変動教育に関する基礎訓練およびトレーナーへの研修
- 2) 気候変動、防災に関する地域コミュニティに根差した教育、研修、ワークショップの実施
- 3) 包摂的でローカルなビデオを活用した教材の開発。 ※最小の地方自治単位

岡山地域賞

2015年 岡山地域賞 受賞事業

岡山市京山地区 ESD プロジェクト

団体名：岡山市京山地区 ESD 推進協議会



2003年から公民館を拠点に、学校と地域が協働し、地域教育力の向上に取り組み、2006年には、「岡山市京山地区 ESD 推進協議会」を設立した。「一人の百歩より百人の一步」を合言葉に、子どもから大人まで多世代が参画し、「環境てんけん」、「地域の絆プロジェクト」や、毎年1000名以上が参加する「京山地区 ESD フェスティバル」を実施するなど、地域全体で ESD を推進している。また、ESD の手法を取り入れて実現した、観音寺用水「緑と水の道」も成果の一つである。

和気閑谷高校 高校魅力化事業

団体名：岡山県立和気閑谷高等学校



日本最古の庶民の学校「閑谷学校」を源流とする和気閑谷高校は、2011年ユネスコスクールに認定された。地域コミュニティの担い手となる人材育成、地域活性化、高校の魅力化に向けて、総合的な学習の時間「閑谷學」における地域をテーマにした探求学習を行うほか、ESD 同好会を設置して全校生徒がボランティア活動等に取り組んでいる。また、町役場や地域、小・中学校と連携し、高校生も参画して、地域の活性化に貢献する取組を行うなど、学校全体で ESD を推進している。

2016年 岡山地域賞 受賞事業

地域で魅力的に生きる大人と将来を模索する 若者の交流事業だっぴ



団体名：特定非営利活動法人だっぴ



地域の様々な課題に対して主体的に行動できる若者や大人を増やすことをミッションに掲げ、「地域で魅力的に生きる大人」と「将来を模索する若者」とがつながる場を創出している。2009年に活動を開始し、学生や若手社会人がチャレンジしながら成長できる若者の実行委員形式を採用して事業を実施している。立場や年齢などに関わらず若者と大人が対等な関係でトークセッションを行う。「今の不安は?」、「あなたにとってかっこいい働き方は?」などのテーマについて

語り合う中で、若者は自身の過去と向き合いつつ、他者の多様な考えや価値観に触れることができ、広い視野で自分の将来を考えるようになる。また、自身の経験を言語化して他者に話すことや他者の言語化された経験を聞くことで自身の自己肯定感を高める効果を得ることもできる。事業を通じて、社会との関わりを軸に進路や就職を考える若者が増え、自分らしい多様な生き方・働き方を見つけるとともに、積極的に選択し、行動していける社会の実現を目指している。

子どもたちがつなぐ矢掛の未来のまちづくり



団体名：やかげ小中高こども連合 YKG60



矢掛町内の幼小中高生が集まり、自分達の「やりたいこと」を軸に、町の課題解決、魅力化に取り組んでいる。主体は子どもたちで、地域で商品開発や環境問題、国際交流、福祉など、やりたいことを事業として企画から実行するまでを大人は見守りながらサポートしている。子どもたちは全て自分で考え、失敗も含め自分の軸で体感し、異年齢の子ども同士、地域の方と協力しながら実践の中で成長し、郷土愛を育てている。月に1度会議を開き、子どものやりたいことをいくつかのグループに分け、実現に向けて話し合う。各グループは異年齢のバラバラのメンバーで構成されており、それぞれが協力し合いながら、子どもで出来ることと、大人の力を借りないといけないことを見つけ、協力者を町内で探し交渉に行き、実現させるよう進めている。例えばゴミを減らすメッセージをCMで流すため、矢掛放送さんに交渉、番組作成のレクチャーを受け、シナリオ、絵コンテ、役役、監督、撮影などをサポートうけながら、自分たちでやりきる。子どもたちのモチベーションを原動力にして、異年齢の協力者との連携で発展させていく力を育て、繋がることを目指している。

2017年 岡山地域賞 受賞事業

グローバル人材の育成&ESD思想の普及と定着

団体名：特定非営利活動法人こくさいこどもフォーラム岡山



1996年創立。当初は、幼児期からの国際感覚の養成を目的として、小学生などを対象に岡山在住の外国人の子ども達との交流事業（「ふれあいこどもフェスティバル」など）を実施していた。しかし、21世紀を迎えたことを機に対象を高校生にシフト。現在、グローバル人材の育成およびESD思想の普及と定着を目的に、次の4事業を実施している。

- ① 国際塾：講師に各界の有識者を迎えて、年間11回の講義を実施。
- ② 懸賞論文：ESD関連の論文（2000字程度）を募集し優秀作を表彰する。
- ③ ESD Café URA:ESD関連を中心に自らの活動体験や意見を日本語または英語で発表するプレゼン大会。
- ④ 高校生グローバルゼミ：ハーバードビジネススクール修了者をファシリテーターに迎えて、同大学流の白熱授業を体験する。

TERAKOYA Project(岡山とネパールを繋ぐ環境問題啓発・学習支援・女性の収入向上のためのプロジェクト)

団体名：ダフェプロジェクト



TERAKOYA 学習塾（地域密着型無償学習塾）と TERAKOYA 縁筆プロジェクト（再生新聞紙鉛筆のネパールでの無料配布・日本での販売及び製作ワークショップ）、TERAKOYA 縫製訓練学校（2016年9月開校、TERAKOYA 学習塾に通う児童の母親に縫製技術を習得してもらい自立を促す）をあわせて事業展開。

当初は縁筆プロジェクトを通じての寄付金と売り上げで学習塾を運営し、貧困家庭の子供の基礎学力の向上を目指していたが、現在は日本とネパールの多文化共生プロジェクトに変化。学習塾は2017年10月以降、地元民による自主運営に代わる予定である。縁筆プロジェクトはTERAKOYA 学習塾の成績優秀者を奨学生として援助していくことになる。

2018年 岡山地域賞 受賞事業

優秀賞（2件）

瀬戸内海の海底ごみ問題の解決に向けた女子中高生の挑戦

団体名：山陽女子中学校・高等学校 地歴部



海底ごみ問題は瀬戸内海において深刻な環境問題である。原因は陸域の生活圏から廃棄される生活ごみが河川を通じて流入することと海底への沈積化である。海底ごみは公的な回収者の不在による回収の困難さに加え、目視不可能であり、その実態や影響に関する明確な理解が乏しいことで、普段の生活から発生し続ける現状がある。そこで、漁船の底曳き網を利用して海底ごみを直接引き上げ、海底ごみを除去することで海底環境の浄化に努めると共に、県内外での出前授業や展示会、国内外の学会や会議での訴え

掛けを通じて、問題の理解と意識と行動の変化を促している。

アフリカと日本をわくわくで繋ぐ アップサイクル商品 フェアトレード事業

団体名：jam tun



廃棄されるビニール素材やハグレ布を使用して鞆などの製品をシンチューマレム村で制作し、セネガルと日本で販売。環境破壊や衛生環境悪化の進むセネガルにおいてごみ問題への意識啓発を目指すとともに、雇用創出や収入の不安定な仕立て屋への収入

源確保を主な目的とする。現地の学校等での環境教育や住民向け講習会も行う。材料の収集には住民にも参加してもらい地域全体でのリサイクル概念の意識付けを図る。日本では矢掛町の朝市を中心にイベント等での出店販売を行う。募金や寄付といった一方向・一時的な支援ではなく、フェアトレードによる双方向・継続的な途上国との関わり方の提案をする。また、小学生等を対象とした講演活動等にも取り組んでいる。

奨励賞（3件）

ESDに資する里山の現代的利用 ～南海トラフ地震への対策をめざして～



団体名：就実・森の学校



南海トラフ地震は、今後30年以内に70～80%の割合で発生する可能性が高いと報告されている。森の学校が位置する操山山塊より南の地域は干拓地で、低湿地が広がり、巨大地震発生の際には液状化が発生しその後、数時間後に最大3mの津波が来襲すると警告されている。本事業はこのような巨大災害時に避難した人々が生活出来る防災拠点を構築することを目的としている。

1. 防災拠点として整備（防災倉庫：里山の整備の間伐竹を竹炭として備蓄、水、食糧、生活用品）
2. 周辺地域からの避難経路の整備および避難地図の製作配布
3. 富山学区全世帯を対象の防災アンケート
4. 周辺町内会との防災協定の締結
5. 富山学区合同避難訓練の実施

サイピアにおけるバーチャル科学館の体験



団体名：特定非営利活動法人 co2sos



仮想3D空間内に設置された、地球温暖化、海洋探査、宇宙開発等様々な分野の科学館を用い、離れた場所（東京地域）から海洋研究開発機構の方（講師招聘は2017年4月以降）が専門的な解説をする様子を会場（サイピア）のスクリーンで放映し、参加者と解説者が音声で質疑応答をするほか、アバター（仮想3D空間内の自分の分身）の操作やGoogleカードボードによるバーチャルリアリティ体験を行っている。また、地域の大学生による指導のもと、仮想3D空間内に再現したバーチャルサイピアを使い、本法人が独自開発したシステムによる、岡山等の濃度変化グラフを見て変化の様子を知るほか、CO2濃度をテーマとするクイズマシンの挑戦も行っている。

三門学区地域のみんなでつながり隊



団体名：三門学区地域のみんなでつながり隊



活動を通じ、子どもから大人まで誰もが安心して住み続けられる地域となることを目的として活動している。

三門学区在住の70歳以上の夫婦または独居世帯を対象に、1回1時間・2人1組で草抜きや窓ふき等のちょっとした困り事支援を無料で行っている。基本的な活動ルール以外の運営規範は、月一回の連絡会で話し合い、合意形成しながら決めている。代表者はあえて立てず、メンバー各々が責任を持ち主体的に活動し、輪番制で役割分担している。役割は大きく分けて3つあり、「月当番」は依頼の担当割り振りや連絡会の進行、「記録係」は連絡会の議事録作成、月当番以外は「サポーター」として依頼が届くと実際に依頼元へ出向き活動を行っている。

2019年 岡山地域賞 受賞事業

優秀賞（1件）

岡山後楽館高等学校「まちなかのふるさと教育」

団体名：岡山市立岡山後楽館高等学校



岡山市唯一の市立高等学校であり、単位制総合学科で公立全国初の併設型中高一貫教育校として平成11年に開校した。全校生徒を対象とした総合的な学習の時間「探究『岡山の未来』」において、地域をテーマにした探究活動を行うほか、特別活動として福祉科目を選択した生徒による「らっかんランチ食堂」、工業科目を選択した生徒による「岡山県産木材ふれあい事業」や、有志による「西川水族館」を行っている。また、全校生徒が社会貢献活動に取り組むなど、学校全体でESDを推進している。

奨励賞（3件）

食とエネルギーの地産地消を考える

団体名：おかやまエコマインドネットワーク



食とエネルギーをテーマに、市民向けの講演・イベントを開催するなど継続的に持続可能な社会づくりに向けた啓発活動に取り組んでいる。主な取組は以下のとおり。

- ・先進的な地域を視察する。
- ・先進的に取り組んでいる団体や個人と交流する。
- ・映画会や講演などの形で広く県民市民に情報を提供する。
- ・身近な地域での活動を紹介し、誰でも取り組めるものと考えてもらう。
- ・近年課題となっている食品ロスについて啓発活動を進める。



私たちの国際協力

団体名：倉敷市立第二福田小学校



小学6年生による国際協力実践活動のプロジェクト。具体的には、インドの最貧州であるビハール州にある NPO が設立したニランジャンスクールでの学習環境改善を応援する活動を行っている。総合的な学習の時間において、途上国の現状を学んだ後、外部専門家の方から話を聞いたり、現地の子どもたちと交流をしたりして、ニランジャンスクールに通う子どもたちの生活環境について知り、自分たちがやるべき課題を見出している。また、解決するための具体策として、フリーマーケット等での資金や物資を集め、外部人材の協力を得ながら現地に届けている。



障がいがあっても、いきいきと人生を生きられるように！

のぼり旗の端材を利用し、障がい者が商品化。企業、学生とのコラボ事業！

団体名：株式会社ありがとうファーム



全国の障害者の自立支援が目的。のぼり旗製造メーカー、(株)イタミアートが廃棄処分している端材を、(株)ありがとうファームで働く障害者が手編みで商品化し、店頭販売しており、廃棄の削減に貢献している。イタミアートはCSRとしてその商品を買取り、自社サイトにて販売、顧客へのプレミアムグッズとして提供することで障害者の収入向上を支援している。商品はテレワーク（政府が推進中のICTを活用した在宅就労システム）により在宅でも制作している。また岡山理科大学エシカルラボと連携し、若者向けの商品を共同で開発している。学生は商品の広報活動などを行い、障害者の潜在能力、SDGs、エシカル消費に関する理解浸透に貢献している。



岡山地域賞 審査員特別賞

岡山における民間ユネスコ運動としての ESD 関係活動

団体名：岡山ユネスコ協会



4つの事業を柱に、持続可能な社会の担い手・創り手を育成している。1) ESDパスポート事業：小学校中学校高等学校でユネスコスクールに加盟している児童生徒を中心にして「ESD・ボランティア活動」に一定数達成した人を表彰する制度を通して、ESD・ユネスコスクール支援を進めている。2) 絵で伝えよう私のまちのたからもの絵画展：小中学校を対象に、自分のまちのたからものを探して、それを絵で伝える地域学習活動を通して、持続可能な地域づくりの担い手、創り手を育てている。3) 平和の鐘を鳴らそう！運動・・・8月15日に岡山市内の寺社で実施。「平和の文化」活動を通じたESDの取り組み。4) ユネスコ地球環境講座・地域における環境学習活動を通じたESDの取組。岡山市京山地区のESD活動等と連携。